

様式6

3 荒一日小第37号
令和3年2月17日

荒川区教育委員会
教育長 高梨 博和 様

荒川区立第一日暮里小学校
校長 白 井 一 之

学校関係者評価報告書

令和3年度の教育活動の評価結果及び改善方針について、下記のとおり報告します。

記

評価項目1「学校全体の様子」

- ・「児童・生徒の様子」について、児童、教職員、保護者とも90%以上が肯定的な評価をしている。これは、本校での興味関心を喚起する授業、よりよい人間関係、学校行事等楽しい教育活動が実践されているからであろう。今後も児童にとって有意義で楽しい教育活動を計画・実践していく。
- ・「児童・生徒理解」について、約90%の児童、保護者が肯定的に評価している。これは、今までの本校の健康教育、安全教育、防災教育が充実している結果であると考え。一方で教職員からは施設設備の老朽化からくる心配の声も上がっている。今後も児童が健康で安全に学校生活を送ることができるように、教育活動を展開していく。

評価項目2「学力向上の取組」

- ・「分かる授業」について、80%以上の児童や保護者が肯定的に評価している。これは、本校の日々の授業が充実している結果であると考え。今後も日々の教材研究やOJTを通して教員の授業力を向上しつつ、ICT機器も活用し、児童にとって楽しく分かる授業を実現していく。一方で16%の児童が否定的評価及び分からないと回答している。それらの児童の個別の聞き取りを通して教員の授業への厳しい自己評価を実行する必要がある。
- ・「情報教育」について、児童、保護者とも約93%、教職員は全員が肯定的に評価している。これは、昨年度以上に各学年の日頃の授業において、タブレットPCや電子黒板等のICT機器を活用している結果である。また、家庭への持ち帰りを行ったこともあり、保護者の周知へとつながった。教職員の実践をもとにした事例研修、日常の授業におけるさらなる効果的な活用方法を探り、実践を公開していく。コロナ禍で家庭での使用が増える中、情報モラル教育は家庭との連携が必要である。
- ・「学校図書館の活用」については、90%以上の児童や保護者が肯定的に評価している。児童は学校図書館を十分に活用していると言える。今後も児童が楽しく、また役に立つ学校図書館であるよう、学校司書と連携して環境整備や読書活動の充実を図っていく。

評価項目3「社会性・人間性の育成」

- ・「道徳教育」については、約85%の児童が肯定的に評価している。日頃の教育活動はもちろんのこと、道徳地区公開講座の場で人権教育の実践を参観してもらうなど、保護者に説明、参観してもらう場を作っていく必要がある。一方で約15%の否定的評価と分からないと回答した児童の個別聞き取りを通し、授業の改善が必要な場合は改善を図る。
- ・「自治的な活動」については、約90%の児童が肯定的に評価している。制限がある中で、児童が自発的・自治的に行える活動を工夫して計画し、特別活動の充実を図っていく。
- ・「個に応じた指導」については、学校生活に不安を感じている児童を特定し、時には個別に支援をしていく。

評価項目 4 「保護者・地域との連携」

- ・「情報配信」については、約 90%の児童や保護者が肯定的に評価している。これは、スクリーンで随時配信される学校便りや学年便り、スクリーンと学校メールの併用で情報の正確な配信、学校掲示板やHPが機能しているからであろう。今後も児童や保護者地域の方にとって適切でわかりやすい情報を提供していく。
- ・「学校への参加」については、約 75%の児童、約 95%の保護者が肯定的に回答した。保護者の肯定的回答は昨年度から大きく伸びた。昨年度と比べると限られた場面や場所ながら授業や行事の公開ができたからだを考える。次年度も状況を鑑みながら保護者や地域の方が参加できる活動を公開していく。

評価項目 5 「特色ある教育活動」

- ・「読書教育」については、約 90%以上の児童、保護者が肯定的に評価している。これは、保護者の方々が読書ボランティアとして本校の読書活動推進のために協力していることも大きく影響している。今後も、学校司書や保護者の方と連携しながら、特色ある本校の読書活動の充実を図っていく。
- ・「ICT 活用」については、約 80%の児童、保護者が肯定的な回答をしている。一方で約 15%の保護者が「よくわからない」と回答している。ICT 機器を使い何ができたかということ伝えていくとともに、長期休業中には電子書籍の活用、タブレットパソコンを活用した宿題等を出していくことも行っていく。なお、2月から始まったオンライン授業期間で、ICT 活用の周知は高まったと考える。
- ・「体力向上」については、約 85%の児童が、肯定的に評価している。運動を楽しむ場としての学校が果たす役割は大きい。昨年度は制限も多かったが、今年度は制限もほとんどなくなり、体育の授業と休み時間の活動を行うことができ、体力テストの結果も伸びた。今後も工夫して計画・実践していく。

評価結果を受けての学校の改善方針

- ・15 年以上続く図書館を活用した読書活動を、保護者と連携しながら、今後も継続的に行う。また、感染症対策を講じた上、児童が読書を楽しみ、調べる喜びを知り、学びを深められるよう、児童の実態に応じて、持続可能な読書環境も整えていく。豊かな心を育てることはもちろん、主体的に課題を解決する力を育てる取り組みで成果を上げていく。
- ・昨年度に引き続き、タブレット PC や電子黒板、デジタル教科書やオンライン教材を活用した。日常での活用を目指し、授業で活用する場面も増えた。オンライン授業期間の開始に伴い、教員間での情報共有も積極的に行った。今後も、ICT 機器やデジタル教科書等を活用して授業の視覚化、共有化を図り、児童にとってより分かりやすい授業を目指す。
- ・児童の「分かる」「できる」を増やすために、教職員の授業力向上を図るための校内研究、および研修を充実させる。また、ICT 機器を活用したデジタル教材を活用したり寺子屋で個に応じた指導をしたりもする。第 5 学年での情報活用能力調査の結果を基に、情報活用能力の体系的な指導を行っていくようにする。
- ・全教職員で児童理解に努める。そして、スクールカウンセラーや一日教室の巡回教員 444 とも連携し、個の特性や課題に合わせた指導・支援を組織的に行う。教職員の特別支援に関する研修も充実させ、児童理解と学級経営に生かす。
- ・「基本的な生活習慣」については、挨拶、言葉遣いの指導を日常的に行うことによって定着を図る。
- ・「社会に開かれた教育課程」をつくり、感染症対策を講じながら保護者・地域と連携し、感染症対策をしつつ、できることを考え、工夫して教育活動を計画・実践していく。また、各種便りや HP による情報発信を充実させ、家庭や地域との連携を密にする。
- ・校務のシステム化、ネットワーク化を図り、教職員の事務に関する時間を軽減するとともに、授業計画・準備の時間にあて、教職員の授業力向上を図る。